



秋田県議会 ● 会派 i buki  
**元気主義**

入進学、就職、転任等新たな気持ちで毎日をお過ごしのことと思います。何より健康が大切です。充分ご留意ください。

県議会は先月九日に定例会が終了しました。新年度予算の審議を中心に、真木ダムの建設中止への言及、大王製紙問題和解勧告の受託、秋天空港ターミナルビル(株)に係る百条委員会の設置等を議論。今号ではこれらの内側をお伝えします。また、裏面で新年度当初予算に計上された県事業一覧(旧仙北郡の町村分)を掲載します。

● 真木ダムの建設中止について  
ダム建設は、洪水調節、上水道水の確保、流水の維持を目的に昭和五十六年から調査が行われ、その費用に約十六億円を投じています。着手した場合、平成三十五年頃完成で試算で総工費約三百億円というビッグプロジェクトです。しかし、国の動向等から「財源の確保が困難」と判断し、知事は建設中止に言及したと思われ。別の水源を求め、工種を変更すると

● 大王製紙問題で和解勧告受託  
県が大王製紙に工場進出を要請し、大王製紙がこれを了解したのが平成元年。その後、様々な問題が起こり、会社側は平成十三年に進出断念を表明。県は「話しが違う」と責任を追及。裁判に訴えて出たのが大王製紙問題です。

● 秋天空港ターミナルビルで百条委員会設置  
秋天空港ターミナルビル問題は、県も出資する第三セクターの同ビルを舞台に、会社交渉費等を私的に使用した知事や県職員の責任が追及されたことを発端としています。この

● 自然環境に優しい工種である  
● 以後の維持管理経費の削減が見込まれる

等を論拠としてしています。詳細な検討が必要ですが、自分はこの方向付けに期待しています。

平成十七年二月一日、東京高裁から和解の提示を受け、これを受託するよう勧告されました。

交際費については常任委員会で実態はある程度明らかになりましたが、外部監査を導入したことで、経営全般に渡る様々な不明点が浮上。フライトインジケーター(離発着電光掲示板)の導入経緯については、県警も捜査に入っています。また立休駐車場の整備計画に関しても、不明瞭な点が指摘されています。

# 今、秋田で何が起きているの？

## 県議会メモ

### 総括質疑にて

会派いぶきを代表して総括質疑を行いました。今回の提案は二件。一つは民間の皆さんと連携した子育て支援策、もう一つは森林環境税についてです。概要をお伝えします。

★

門脇：福祉保健部長に尋ねる。民間の子育て応援団を拡大する必要があると思うが如何か。

福祉保健部長：たくさんの方々にご協力いただけるよう今後も施策を講じていく。門脇：もっと具体的に。例えば近所の呉服店や鮮魚店、スーパー、ガソリンスタンド…。様々な事業主の皆さんに子育て家族の応援団になってもらってはどうか。日常的な割引サービスができれば家計は大いに助かるだろう。だが一方的に行政からお願いするのは筋違い。事業の圧迫になっては本末転倒。家計を助けるのも子育て支援の必要な視点と考え、可能性を探るため新たな仕組みづくりに取り組んではどうか。

知事：全く新しい発想だ。実現に向け県として何が出来るか、検討研究させて欲しい。

★

門脇：森林環境税の議論が全国で活発だが、県職員で構成された温暖化対策・環境保全政策研究会の状況をお聞きしたい。農林水産部長：今まで三回の会議を持った。他県の状況も見ながら、今後は県民の皆さんにパブリックコメントなどで意識調査を実施したい。

門脇：福島県では平成十八年四月から県民一人あたり千円の負担をいただいて自主財源とし、森林施業を行うことになった。地球温暖化対策はもちろん重要だが、県土保全の面からも自主財源を確保し、自分たちの財産は自分たちが手入れをする意識で、森林施業の拡大が必要ではないか。その為には、まず現場の意見を聞かなければいけない。県職員だけの検討会は手薄だ。県民からコメントをいただくのではなく、検討会にメンバーとして参加してもらい、広く議論すべきではないか。

知事：そのような議論は大切だ。あと少し時間をいただきたい。



